

狭山で見つけたSDGsの取り組み!



新しいモビリティ社会の実現に向けて



本田技研工業株式会社
Honda e開発責任者
一瀬 智史さん

私たち開発者はいつも誰かのためを思い、「どう
いう人にどういう価値を提供できるか」について
多くの議論を交わし、自動車の開発をしています。
法律や環境、文化、時代などを考慮しなければいけ
ないので、その答えは永遠に見つからないかもしれませんが、人々の笑顔の
ために毎日頭を悩ませ続けています。

そんな私たちが開発した車が「Honda e」です。この車のコンセプトは
「Seamless Life Creator」。この車を基点として、車による移動と人々の暮
らしがより密接につながり、日常がより豊かになることを目指して開発しま
した。私たちが考える、環境問題に配慮した「未来の街ナカベストの車」です。



新型電気自動車の「Honda e」写真提供: Honda



わがまち狭山、そして地球のために



NPO法人さやま環境市民ネットワーク 理事
吉岡 勇三さん

私たちは緑、川、ごみ減量、温暖化対策の分科会
が中心となり、環境保全に関するさまざまな取り
組みを行っています。

活動の一つに「マイタウンソーラー発電所の設
置」があります。これは、ソーラー発電の普及・啓
発や、次世代を担う子どもたちの教育を目的とし
て、市内にソーラーパネルを設置する取り組みで
す。現在、自治会館や幼稚園など4か所にパネルを
設置し、稼働しています。この取り組みが評価さ
れ、「脱炭素チャレンジカップ2021」のファイナ
リストに残ることができました。これを機会に、



狭山ひかり幼稚園での点灯式

持続可能なまちに
していくことの大切さを市内外に伝
えていきたいです。
(P18に関連記事あり)



ICTを活用した次世代の教育



狭山市立教育センター 指導主事
尾崎 孝之さん

GIGAスクール構想とは、令和元年12月に
文部科学省が打ち出した取り組みで、公立
小・中学校の児童・生徒向けに「1人1台端末」
「高速大容量の通信ネットワーク環境」を整
備し、創造性を育む教育を全員が受けられる
ようにするものです。

狭山市では、まずオンライン学習支援シス
テムの運用を開始しました。学校の授業で活
用しながら、自宅でもパソコンやタブレット
を使って学習できるものです。

現在、全員が
平等に学習でき
るよう1人1台端
末の整備に向け
て、準備を進めて
います。



パソコンを使った体育の授業(御狩場小学校)

前のページでは、皆さんができる日常の中のSDGsを紹介しました。個人だけではなく、団体でもさまざまな形でSDGsに携わっています。続いては、市内の企業や市民団体などの皆さんの取り組みを紹介します。



誰もが共生できる社会を目指して

みのり福祉会 理事長
坂本 光雄さん



私たちは、知的障害のある方を対象とした福
祉事業を行っています。その一つとして取り組
んでいるのが就労支援。主な活動として、福祉施
設での製パン作業があります。パン生地成型
や袋詰め、ラベル貼りなど、工程の中でも危険の
少ない作業を行い、作ったパンは地域の企業や
保育所などに配達しています。

販売や納品の際に外部の人と関わることで、
「働く」ことの楽しさを知ってもらい、作業の対
価として給料をお渡しし、社会的自立ができる
ことを目的としています。



袋詰めの作業



「もったいない」を「ありがとう」に



フードバンクさやま 代表
安永 康枝さん

フードバンクとは、職場や家庭にある「食べられるけ
ど余っている」食品を寄付していただき、困窮する世帯
へ届ける活動です。この活動の特徴は、十分な食料が確
保できない「貧困問題」と、環境問題の一つである「食品ロス問題」の両方からアプ
ローチを行う点にあります。

失職や収入減によって困窮する方が増えるコロナ禍では、食料が十分に流通に乗ら
ず余剰が発生してしまう状態になり、フードバンクの必要性を特に感じました。

この援助は、個人に対しずっと続けるものではなく、あくまで自立を促すことを目
的としているので、「仕事が見つかったのもう援助は大丈夫です」などといった言
葉を聞くのがとてもうれしく、励みにもなります。

寄付に関する問合せはフードバンクさやまへ ☎070-4440-2590



地場を活用した肥料で作る、地元の野菜!

みずな 水菜農家 中田 晃さん



私の農園では、落ち葉を活用した循環型の伝
統農法で野菜を育てています。現在は化学肥料
が一般的で、時間もコストもかかる落ち葉肥料
を使う農家は少なくなっています。

それでもこの農法にこだわるのは、おいしい
野菜を作るため。私は主に水菜を作っていますが、葉っぱの肉厚さやみずみずしさが違うよう
に感じます。この農法も評価の一つとなり、埼
玉県の農場評価制度である「S-GAP」を取得し
ました。

手入れされた良質
な平地林が広がるこ
の土地だからこそ、
落ち葉肥料を使い続
けることができるの
だと思います。

